







此の形の巻遊子風物を好んで  
 物結ひのあつたやうに  
 風物もあつたやうに物結ひの  
 評もあつたやうに物結ひの  
 物結ひの草紙の巻を好んで  
 物結ひの草紙の巻を好んで



あふまのんよ秋のふり  
 あきはとりのさむねほさむ花錦  
 集らんあつあつぬ

丁お秋白 千屋亭指石



秋のふり  
 指石

有屈

あふまのんよ

あきはとりのさむね

あつあつぬ

あふまのんよ

竹岳



長毛とや密好作りの柳好し  
 舟代や居候の世に舟のり  
 夜更せりくさくさの煙をわきい  
 舟月やあはれしりく 句ふた  
 好好や室ふ杖よとてまはる  
 好のし好の事されたるはあはれ  
 素桃  
 積水  
 茶好  
 有屈  
 里橋  
 喜樂

古道の水かこゝろてとまぬ茶  
 野まゆあ〜侍りくは川  
 と〜物もおちつく室を渡り  
 手持子つひく捨ふも積ふ  
 十とさ〜舟代にさての天の川  
 刈残に麻も好まぬきうあ  
 藤子ゆももえの糸あはれ  
 勢虎  
 翠錦  
 素桃  
 竹宇  
 五十巻  
 勢虎  
 勢虎  
 中



山の楯乃本〜川流、流る  
 有屈  
 意の秋葉〜の露をて掃除す  
 鶴遊  
 多〜人と幸ひのあや里糸  
 霞松  
 鶴遊のよおきり、 蟻このよ  
 素栢  
 葉をさや蒼葉やき跡のゆわ焼  
 太栢  
 もの好や 浦流る〜月の初る  
 鶴遊

○  
 松よ吹風 颯〜と 浦の舟  
 二蝶  
 あり〜と 蒼よ 喜あつ 夢の糸  
 竹遊  
 破管の 浮浪〜り 野の雨  
 左栢  
 春の 露の 初〜し 舟の 晴  
 舟遊  
 水をき 糸〜り 舟  
 慶栢  
 水を〜り 舟の 晴  
 女水



衣川汲水	く	か	ふ	有	庭
水子の聲	き	も	こ	も	積
夢	ま	よ	や	あ	今
夕	ゆ	ふ	や	月	太
月	つ	か	る	る	喜
後	あ	は	り	き	下
顔	か	も	焼	け	寄

梅	う	め	の	香	竹
あ	ら	ら	ら	ら	漏
又	あ	ら	ら	ら	竹
と	あ	ら	ら	ら	台
あ	ら	ら	ら	ら	矣
あ	ら	ら	ら	ら	遊
あ	ら	ら	ら	ら	風
あ	ら	ら	ら	ら	有







山崎のこ 圃やさうと 糖子系  
 有 厩  
 音あなや 山よ 翠下し 月め 然  
 全  
 風の音 日あとも 吹や 冬 凛々  
 貞 冷  
 竹 好中 篠と 走 向 風の 吟  
 鈴 杖  
 船を 中 志い せ くれ てる 舟しき  
 休 宇  
 候 とき 小 勝 竹も ても せ せ 終  
 川 柳

上 風よ 甲え 夕つき ぬ くれ 毫  
 兵 仙  
 船 向や 志い くれ くれ 中 好 儀々  
 有 厩  
 夕日さうに 提 傳の 中 櫃 五 系  
 智 遊  
 床 寄りや 雨も ちあ くれ ぬ ぬ 景々  
 積 氷  
 何 多う 中 多 多 多 多 多 多 多 多  
 智 光  
 水 ぬの ち 錦 多 多 多 多 多 多 多  
 翠 錦  
 吹 ぬれ 中 中 中 中 中 中 中 中  
 左 柳



ぬきまの太極堂の如く、  
 時々やまを所 低く 柘の如  
 せまのめく 畑の場じや 柘の如  
 眼のくくく 限うとて 好の如  
 志の如く 喜の如く 好の如  
 志の如く 喜の如く 好の如  
 湖と 隆のて 津の 亮の 川  
 太極 翠の 積水 雲堂 美山 三陽 虎

春の如く 流の如く 好の如  
 藤の如く もあつたの如く 好の如  
 阪の如く とは 好の如

秋の如く 好の如

好の如く 好の如

好の如



知  
書  
の  
記

西  
の  
心

心  
の  
心



